

修士論文

e-learning による大学入学前の文章トレーニング教材の開発

Development of a pre-university learning material for
writing skills by e-learning

社会文化科学研究科教授システム学専攻修士課程

079-G8114

宮下 伊吉

指導：渡 邊 あ や 准教授 ・ 喜 多 敏 博 教授 ・ 鈴 木 克 明 教授

2010年1月
(2010年2月修正)

目 次

第1章 本研究の背景

- 1－1． 本研究の背景
- 1－2． 本研究の目的
- 1－3． 先行研究及び先行事例

第2章 本研究の方法

- 2－1． 本研究の方法
- 2－2． 本研究の実施計画

第3章 教材開発

- 3－1． 教材開発の方向性
- 3－2． 教材の内容の設定
- 3－3． 文章スキルの抽出
- 3－4． 教材の設計
- 3－5． 教材の開発

第4章 教材の評価

- 4－1． 評価の設計
- 4－2． 評価結果の分析
- 4－3． 形成的評価後の教材の改善点

第5章 結論

- 5－1． まとめと考察
- 5－2． 今後の課題

参考文献リスト

第1章 本研究の背景

1-1. 本研究の背景

現行の大学入学前の文章作成指導の問題点は、学習目標が入学後の文章表現指導と接続していないことである。本研究の問題意識は、多くの大学が実施している入学前教育の文章作成指導が、入学後の初年次教育で行われている文章表現指導につながるような学習目標を設定できていないのではないかという疑問からはじまった。そして、大学入学前の文章作成指導を補完するような自習教材を提供することによって、入学前教育の改善に貢献できないだろうかと考えたのが、本研究の始まりであった。

近年、わが国では、大学入学者の基礎学力不足や推薦入学・AO入試等の広がり背景として、入学前教育を実施する大学が増加している。1990年代から2000年にかけて、大学設置基準の大綱化や、18歳人口急減期に入り、多様な入試（少科目入試など）を行う大学が増えたことなどから、大学入学者の基礎学力不足の問題がクローズアップされるようになった。私立大学では、2000年度より推薦入試による定員枠の規制が入学定員の半数まで緩和されたこと（短期大学では同年撤廃）とAO入試の普及により、入学前教育を行う大学が増えはじめた。

1999年の時点において、すでに国公立大学16大学17学部、私立大学90大学138学部、合計106大学155学部で推薦合格者に対する入学前教育が行われている。（山本 2001）その実施内容で最も多く実施されているものが、小論文・レポート作成であった（34大学）。その次に多く実施されている内容が読書感想文であった（24大学）。どちらも同じ文章作成の課題とすると、文章を書かせ、提出させるという入学前教育は、106大学中58大学で実施されていることになる。

現行の入学前教育の実態は、400～4000字のレポートを書かせ、添削・コメントするケースが多い。河合塾が全国の国公立大学AO入試実施校に行った「AO入試・入学前教育に関するアンケート」調査結果報告書（2008）では、入学前教育でレポート作成の課題を課す19校について、実施内容を調べている。その内容をみると、19校中7校が実施しているケースが、大学が指定または複数提示した課題図書を読んでレポートを提出させる課題図書型であった。

レポートを書かせ、添削・コメントするという入学前教育は、一般的な実施内容であると捉えられている。その一方で、大学入学前に提出されるレポートを添削する大学側には負担が生じている。大学入学前の段階で、学内の教員にまだ入学していない学生のレポートの添削を求めることは、教員の負担増につながるからである。そのため、レポートの添削指導を予備校などの外部に委託する大学が増えている。2009年12月9日付けの読売新聞（夕刊）によれば、入学前教育の添削指導を外部に委託している国公立大学は115校にもものぼる。大学の入学前教育の添削指導は、外部に委託して実施することがあたりまえになってきている。

表 1. 入学前教育でレポート作成の課題を課す 19 校

国公立大学	レポート提出を課す入学前教育の主な内容
北海道教育	指定図書レポート、2 度添削、大学来校、プレゼンあり
東北	3 つの課題から選択、3/末提出
秋田	高校の学習内容要約→毎月送付
山形	1. チャレンジ小論文 400 字要約、2. 課題小論文 800 字、 3. 日本語力 12 講→短文読み、考えまとめ表現
お茶の水女子	興味あるテーマ自由設定、レポート提出
福井	課題図書提示、レポート作成
山口	課題図書提示、レポート作成
長崎	課題図書提示、レポート作成
信州	地学分野のホットな話題についてレポート提出
静岡	化学、数学・物理のテキスト・問題集の進捗状況をレポートで提出
名古屋工業	化学、数学・物理のテキスト・問題集の進捗状況をレポートで提出
三重	化学、数学・物理のテキスト・問題集の進捗状況をレポートで提出
京都工芸繊維	入学前オリエンテーション 1 日、プレースメントテスト、スクリーニング、 通信添削 4 科目 3 回ずつ、文章構成力（作文力）向上
鳥取	2 泊 3 日入学前教育合宿イベント（プレゼン発表）、e ラーニング、 プレースメントテスト（英数＋国 or 理科）、入学後のフォローアップセミナー
島根	高校の現代国語の復習、地球科学に関する本で自分が興味をもった本 1 冊以上 読む）
岡山	課題図書を読みレポート作成、演習問題あり
広島	指定図書 1 冊選択しレポート作成。指定ジャンルより 2 冊読み感想文提出。 評論的文章 1 冊読み内容解説→教員へ郵送。 専攻分野関連の図書数冊を自分で設定し内容を提出。 指定報道をスクラップ→社会とのかかわりの視点から自分の考え 4000 字で
愛媛	興味関心をもった事柄の自主課題、自習研究、自主研究レポート作成、 内容や感想を e メール、入学前の特別交流授業 1 泊 2 日でグループ内で読んだ 本を紹介
岩手県立	勉強計画レポート提出

出典：「A0 入試・入学前教育に関するアンケート」調査結果報告書 河合塾（2008）より

レポートを書いたことがない学生（高校生）にとっても、大学合格直後にいきなりレポート提出を求められるのは、かなりの負担であると考えられる。2004 年にメディア教育開発センターが行った大学入学直後のプレースメントテストに関する N I M E の研究報告が大学生の文章スキルの実態を明らかにしている。大学生の日本語力のプレースメントテ

トの調査結果によれば、“私立の4年制大学には19%の中学生レベル以下の学生が在籍”し、“短大の調査結果から35%、3人に1人は中学生レベル以下”であることが示されている。(小野ほか 2005)

この調査結果より、レポート・論文の書き方以前に、日本語力自体が危うい大学生が存在していることが示されている。このような学生に対して、大学入学前にいきなりレポート提出を求めるだけではなく、文章の基礎的なスキルを習得する機会の提供が必要と考えられる。

日本語力が不足している大学生であっても、大学ではレポートや論文を書く機会に直面することになる。大学では、高校から大学への円滑な移行を目的とした教育「初年次教育」において、そのような学生を含めて、文章表現指導を行っている。

2001年に、杉谷らが、日本私立大学協会附置私学高等教育研究所で行った全国の私立大学1170学部の学部長調査によると、初年次教育の実施率は80.9%にのぼる。そのうち、授業以外のプログラムとして入学前の指導・課題を行っている割合は34.6%（理系学部系統では40.9%）となっている。初年次教育の授業内容で実施されている割合が高いものとして、「学問や大学教育全般に対する動機付け」40.5%について、「レポート・論文の書き方などの文章作法」が38.3%となっている。初年次教育で重視する内容で平均値が高かった項目になると、「レポート・論文の書き方などの文章作法」が4.62と最も高い数値がでている。(杉谷 2004)

このようにレポート・論文の書き方、文章表現力を身につけることを学習目標とした文章表現指導は、多くの大学で初年次教育において重視されている。

表2. 初年次教育において重視する内容

	平均値
① レポート・論文の書き方などの文章作法	4.62
② コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術	4.49
③ プレゼンテーションやディスカッションなどの口頭発表の技法	4.43
④ 論理的思考力や問題発見・解決能力の向上	4.40
⑤ 学問や大学教育全般に対する動機付け	4.40
以下省略	

出典：杉谷”大学管理職からみた初年次教育への期待と評価”，大学教育学会誌26-1号，p35(2004)より

以上のことから、現行の入学前教育における文章作成指導は、いきなり文章を書かせ、添削する指導が中心であり、入学後の初年次教育で行われている文章表現指導につながるような文章の基礎的なスキルを習得する学習の機会が不足している。それが、現行の大学入学前の文章作成指導の問題点である。

1-2. 本研究の目的

現行の大学入学前の文章作成指導において、入学後の文章表現指導につながるような文章の基礎的なスキルを習得する学習の機会が不足しているという課題は、文章を書く前の文章基礎力を身につけるトレーニングを、e-learning による自習教材として開発することにより、改善することが可能であると考ええる。

そこで、本研究の目的は、文章基礎力をトレーニングする e-learning による自習教材を開発することで、大学入学前教育の改善に貢献できることをめざすものである。

本研究は、現状の大学の入学前教育を否定するものではなく、現行の入学前教育における文章作成指導を補完しうる自習教材の開発によって、入学前教育の改善に貢献することで、高校から大学への円滑な接続をサポートしていく。

1-3. 先行研究及び先行事例

高等教育における文章表現プログラムの開発に取り組んだ井上によれば、高等教育に必要とされる基礎的な文章表現力育成をめざした学習の到達目標は2つである。一つは、文の基本構造を学び、論理的に書く力を習得すること。もう一つは、事実にもとづく意見文を書くことを学び、情報を正確に伝える力を習得することである。どちらも学習の到達目標に至る具体的な学習目標は、基本学習1、基本学習2、応用学習、発展学習の4段階で示されている。文の基本構造を学び、論理的に書く力を習得する到達目標における基本学習が、「一文の構造から読み手にとってのわかりやすさを学習する」ことにあたり、発展学習の段階が「序論・本論・結論といった、レポートの型を知り、論理的な文章を書き、自分の文章を読み返す」ことにあたる。大学入学前にレポートを書かせることは、いきなり発展学習に取り組ませていることになるといえる。

次に、基礎的な学習項目をもとに、入学後の初年次教育につながるような学習内容で、外部に委託することなく、入学前の文章指導を実施している先行事例がないかを文献調査を行うことにした。文章表現、日本語学習の入学前教育の事例について、GeNi で検索すると、「入学前教育」で50件、「リメディアル」だと223件、「初年次教育」だと267件の論文があがってきた。「レポート作成」だけだと、445件にのぼるが、「入学前教育+レポート作成」では0件、「レポート作成+eラーニング」では5件しか検索できていない。そこで、入学前教育に関する論文の中から、「文章表現」「日本語表現」に関する事例を検索し、その結果、2つの先行事例をみつけることができた。

一つは、向後ほかの早稲田大学におけるeラーニングによる大学入学前教育「文章表現」の事例、もう一つは、池内ほかの産能短期大学の入学前学習「日本語表現」の事例である。

二つの事例とも、単に文章を書かせてコメント・アドバイスするのではなく、文章を書くために必要なスキルを体系的に学習させようとしている。

表 3. 高等教育に必要な基礎的文章表現力育成を目指したプログラム開発のための枠組

ねらい	到達目標	学習目標
自分が書いた文章を対象化しモニタリングするメタ認知を働かせる	文の基本構造を学び、論理的に書く力を習得する.	基本学習 1) 一文の構造から読み手にとってのわかりやすさを学習する.
		基本学習 2) 文章の構成, 特に文章の連結に焦点を当て論理の組み立てを学習する.
		応用学習) 論理構成法の一つとして, 比較対照する方法を取り上げ, 異なる意見を想定した議論の展開の仕方を学習する.
		発展学習) レポート (論文) の構造や, 原稿の作り方の学習を通して, 論理的な文章の書き方を学ぶ. 文章をモニターする力を養う.
ことで文章表現力を養う.	事実にもとづく意見文を書くことを学び, 情報を正確に伝える力を習得する.	基本学習 1) 表現意図と表現のズレについて考えながら, 事実文か, 意見文かを識別する方法を学ぶ.
		基本学習 2) 情報を正確に伝えることの重要性や難しさをテレビの報道番組から学習する.
		応用学習) 根拠 (資料・データ) を示した上で自分の意見を分析的にまとめる書き方を学習する.
		発展学習) テーマを設定し資料を収集してデータに基づいた意見文を書く. 文章をモニターする力を養う.

向後ほかの早稲田大学における e ラーニングによる大学入学前教育「文章表現」の事例は、Web のストリーミング配信ビデオと、BBS で提出した作文を院生にコメントしてもらう受講者負担の e-learning である。構想マップ、5 段落構成といった文章表現に関するスキルを体系的に学習できる事例である。(向後ほか 2006)

池内ほかの産能短期大学の入学前学習「日本語表現」の事例は、140 字のパラグラフを 3 つ書くパラグラフライティングのスキル習得に絞った学習内容であり、入学後の「日本語表現」の授業とも連動している。(池内ほか 2006)

二つの事例に共通している点は、院生または教員によるアドバイスの体制が整っていることと、構想マップ、5 段落構成あるいはパラグラフライティングといった文章表現に関する特定のスキルを学習できる点である。単なる添削指導に比べ、学習目標が明確な事例であるといえる。

本研究では、特に、向後ほかの早稲田大学における e ラーニングによる大学入学前教育「文章表現」の事例における次の点に注目した。それは、一人 1,500 円の入学前教育の受講料を払った受講者 (高校生) 411 人から、一度でも受講した人のうち、4 週間の各ステップをすべて終了した人は 5 割強であったこと、課題まで提出できたのは 3 割弱であったことである。受講者アンケートで授業評価は高い結果がでているが、受講料を払ったにもかかわらず、受講しなかった人、課題を提出しなかった人がいることは、入学前教育の難しさを表わしている。

また、BBS 上での院生のコーチによるコメントが評価が高かったことと、同じ BBS 上でのピア・レビュー（友だちに自分の書いた文章を読んでもらい、コメントをもらう）の件数が少なかったことは、興味深い結果であると感じた。コーチから自分の文章への助言はもらっても、同じ受講者の文章に対して自分からコメントするのは苦手（あるいは文章へのコメントの仕方がわからない）である学生（高校生）の姿が浮かび上がってくる。

表 3. ガニエの 9 教授事象にもとづく入学前教育の事例比較

9 教授事象項目	e-learning による文章表現の入学前教育の事例（向後ほか 2006）	文章表現の添削指導による入学前教育の事例である（池内ほか 2006）
1. 学習者の注意を喚起する	ストリーミング配信の講義ビデオ	11 月、入学手続き書類に学習の進め方、課題 1 「私の高校を紹介する」同封
2. 学習者に目標を知らせる	Web 教材（ワークブック） 1 実用文を書こう 2 構想マップ 3 ノンストップライティング 4 パラグラフにする 5 5 段落で構成する 6 友だちに読んでもらう 7 書きなおしとパブリッシュ 8 書く人生への第一歩	12 月、ガイダンスにて説明（課題 1 回収） 2 月事前授業時に課題 2 「わたしへの注文」説明
3. 前提条件を思い出させる		情報を整理するステップ
4. 新しい事項を提示する	スキル紹介 →構想マップ、5 段落構成、ピアレビューなど	パラグラフライティング
5. 学習の指針を与える	課題→BBS に投稿	参考資料：学習の進め方→課題シートの提出
6. 練習の機会をつくる		
7. フィードバックを与える	大学院生 4 名をオンライン上のコーチ	アドバイスシート作成マニュアルに従い、12 名の教員が課題 1 のアドバイス記入
8. 学習の成果を評価する	受講者同士で書いた文章にコメントをつける課題 オンラインによる授業評価アンケート	2 月の事前授業時に課題 1 のアドバイスを受領 4 月リエンション時に受講者アンケート配布回収
9. 保持と転移を高める	受講を振り返っての感想を書く課題	課題 2 は、入学後のリエンション時の自己紹介および日本語表現の授業で活用

果たして、学生自身は大学入学前に文章力を身につけたいと感じているのだろうか。

入学前教育に関する学生の意識調査の先行研究から、大学入学前後の文章力の学習ニーズを確認した。(中村ほか 2007)

すると、学生自身も入学前に文章力を身につけたいと感じていること、さらに入学してから文章表現力が必要だと思う学生は、入学前よりも増える傾向にあることが、明らかになった。したがって、大学入学前後で、文章スキルの学習ニーズがあるといえる。

(図1. ～図2. の出典：中村ほか“短期大学部生活創造学科学生を対象とした入学前教育に関する意識調査”北星論集(短)第5号(2007)より、図表抜粋・加工)

図1. 入学前に文章力を身につけるべきであった

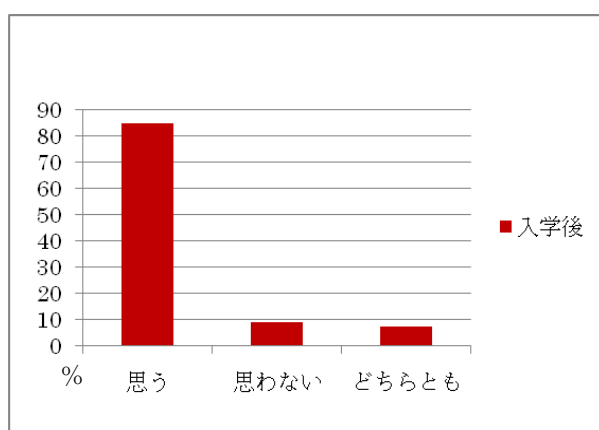
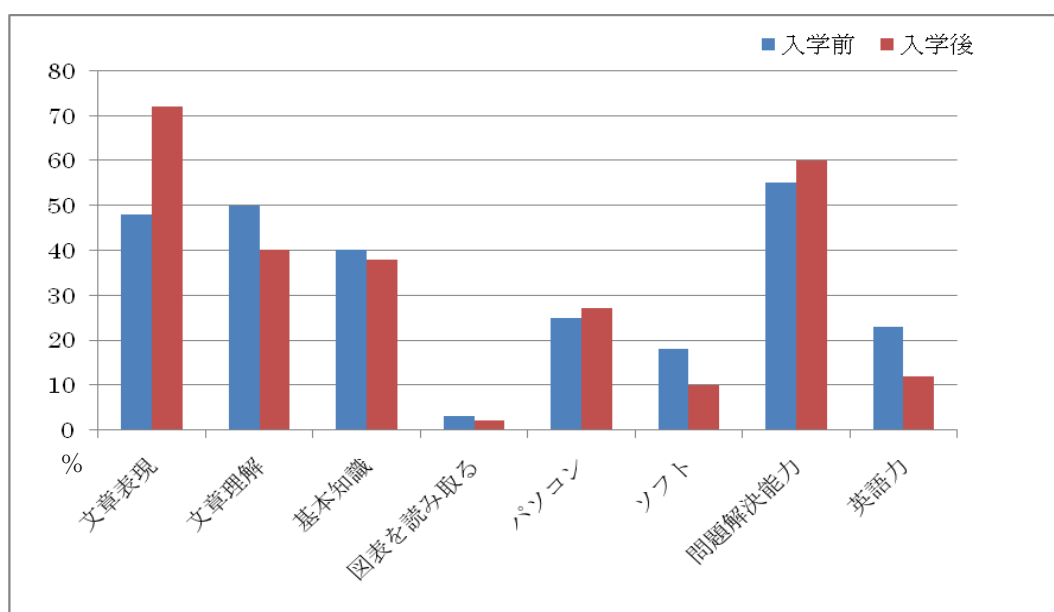


図2. 大学に入学するまでに身につけておきたいと考えているスキル



以上の先行研究・先行事例より、現行の大学入学前の文章作成指導で明らかになった課題は、次のとおりである。

まず、現行の大学入学前の文章作成指導では、発展学習にあたるレポートを書かせ、添削・コメントすることが中心となっており、入学後の初年次教育における文章表現指導につながる体系だった学習目標が定められていない。さらに、高等教育に必要な基礎的文章表現力育成をめざしたプログラムで示された、文章の基礎力にあたる基本学習の機会が不足していることが課題である。

第2章 本研究の方法

2-1. 本研究の方法

本研究の方法では、まず、高等教育に必要とされる基礎的な文章表現力の育成をめざした学習の到達目標を示した先行研究を調べた。次に、基礎的な学習項目をもとに、入学後の初年次教育につながるような学習内容で、外部に委託することなく、入学前の文章指導を実施している先行事例がないかを文献調査を行った。さらに、入学前教育に関する学生の意識調査の先行研究から、大学入学前後の文章力の学習ニーズを確認した。

そして、先行研究及び先行事例から、現行の大学入学前の文章作成指導の課題を整理し、その課題にもとづき、教材開発の方向性をまとめていく。つづいて、教材開発にあたり、教材の内容を検討し、課題解決のための方法をまとめた。具体的には、学習対象となる文章スキルを抽出し、学習課題の種類と出入口を明確にし、課題分析図を作成した。教材の開発は、e-learning 教材の開発計画を作成し、教材のプロトタイプ作成に取り組んだ。

教材の評価は、文章スキルの研究を専門とする大学関係者および企業関係者に協力いただき実施した。最後に、改善後の教材について、別の評価者に確認を依頼し、その結果を踏まえて、今後、さらに教材のブラッシュアップをはかっていく予定である。

2-2. 本研究の実施計画

本研究は、以下の予定で実施している。

- 4月～ 先行研究、先行事例の確認
- 10月～ 研究テーマ、方針の決定
教材作成の理論的整理
教材企画書の作成
- 11月～ 開発計画書（開発内容一覧・画面遷移図・運用方針）の作成
教材制作開始
問題制作着手
- 12月～ プロトタイプの完成
教材の評価依頼
- 1月～ 評価結果まとめ
論文ドラフト完成
- 2月～ 形成的評価と教材の改善
論文の完成

第3章 教材開発

3-1. 教材開発の方向性

先行研究及び先行事例から、現行の大学入学前の文章作成指導の課題を整理し、その課題にもとづき、教材開発の方向性を次の通りまとめた。

現行の大学入学前の文章作成指導の課題は、発展学習にあたるレポートを書かせ、添削・コメントすることが中心となっている点から、文章の基礎力にあたる基本学習の機会が不足しており、入学後の初年次教育における文章表現指導につながる体系だった学習目標が定められていないことにある。

そこで、本研究では、現行の大学入学前の文章作成指導を補完し、入学後の初年次教育における文章表現指導につながる体系だった学習目標を明らかにしながら、高等教育に必要な基礎的文章表現力育成をめざしたプログラムで示された、文章の基礎力にあたる基本学習（正しい文の構造、ルールを学ぶ）の自習教材を開発していく。

開発にあたっては、大学の入学前教育を代行するものではなく、現行の大学入学前の文章作成指導を補完する自習教材として、正しい文の構造、ルールを学ぶ知識学習をサポートすることをめざす。

3-2. 教材の内容の設定

開発する教材の学習目標は、高等教育に必要な基礎的文章表現力育成をめざしたプログラムで示された「文の基本構造を学び、論理的に書く力を習得する」ことを学習の到達目標として、その土台となる基本学習として、「一文の構造から読み手にとってのわかりやすさを学習する」内容とする。

すでに大学が行っている応用、発展学習にあたる文章を書かせることを学習目標にするのではなく、その土台となる文章基礎力をトレーニングする自習教材を開発していく。

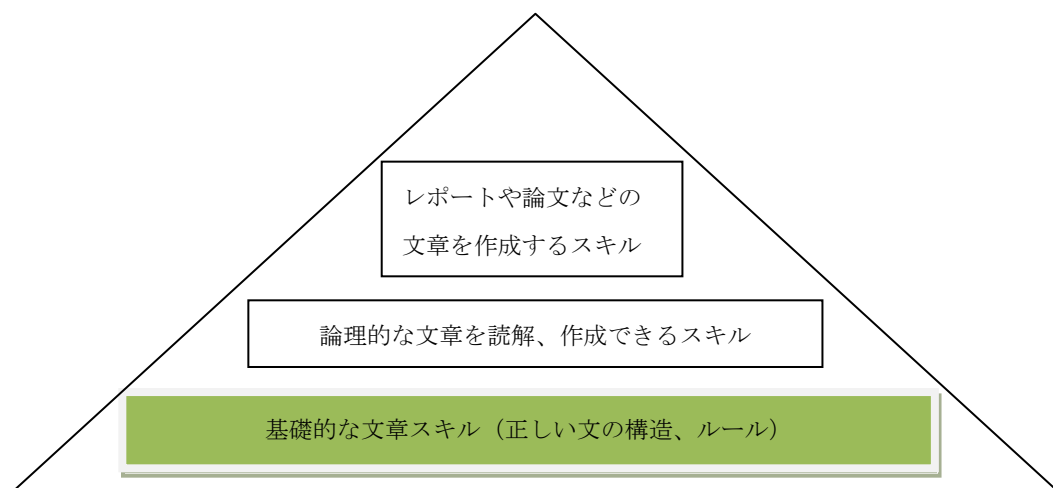
具体的には、正しい文の構造、ルールを中心とした知識定着のための汎用性がある自習教材としていく。

3-3. 文章スキルの抽出

本研究で開発する教材においては、井上が示した高等教育に必要な基礎的文章表現力育成をめざしたプログラムの枠組みにある学習目標にもとづき、文章スキルを次のように定義する。

高等教育で必要とされる基礎的文章表現力としてのスキルは、学習の到達目標をレポートや論文などの文章を作成するスキルとし、そのスキルを支えるものを論理的な文章を読解、作成できるスキル、さらに一番下の土台となるものを基礎的な文章スキル（正しい文の構造、ルール）とした。

図 3. 文章スキルとは



土台となる基礎的な文章スキルがしっかりしていないと、レポートや論文などの文章を作成するスキルがつまあがっていかないとする。

それでは、基礎的な文章スキル（正しい文の構造、ルール）とは、こういったスキルなのか、具体的に抽出する。参考にしたものは、友松が著した、留学生向けの日本語学習用の文献『小論文への12のステップ』（2008）である。その理由は、日本語の構造について、要点がわかりやすく、例文が多く実践的であり、論文作成を最終目標に設定しているからである。

特に、高校卒業程度であれば、身につけているとされる、主語と述語、句読点や記号の使い方、文章の種類と文体、接続詞および修飾語や形容詞・副詞の適切な使い方など、主に7種類の学習項目を抽出した。前述の文献には、そのほか、段落の使い方や、事実と意見を区別なども示されていたが、井上が高等教育に必要な基礎的文章表現力育成をめざしたプログラムの枠組みで示した、もう一つの到達目標である「事実にもとづく意見文を書くことを学び、情報を正確に伝える力を習得する」学習内容にあてはまることから、今回の教材開発においては、「文の基本構造を学び、論理的に書く力を習得する」ことを学習の到達目標の基本学習の内容となる、7種類の学習項目に絞った。

表 4. 基礎的な文章スキル（日本語の正しい文の構造・ルールを理解するための学習項目）

主語と述語がある文、ない文を区別できる
句読点の使い方が適切な文かどうか見分けられる
文字や記号の使い方が適切なかどうか見分けられる
文章の種類（文体）を区別できる
どの場面でどの文体を使うことが適切か判断できる
指示語、接続詞の使い方が適切かどうか見分けられる
修飾語、形容詞、副詞が正しく使われている文かどうか見分けられる

3-4. 教材の設計

教材の設計にあたり、学習対象者と学習課題の種類と出入口を明確にする。学習対象者は、推薦・AO入試に合格した、大学入学前の学生（高校生）で、特に、大学から入学前の文章作成指導としてレポート提出を課せられている高校生で、文章力に自信がない学習者を想定する。この条件にあてはまることが本教材の前提条件である。

教材の学習課題の種類と出入口の明確化は、次の通りである。

表5. 学習課題の種類と出入口の明確化（鈴木 『教材設計マニュアル』2002より加工）

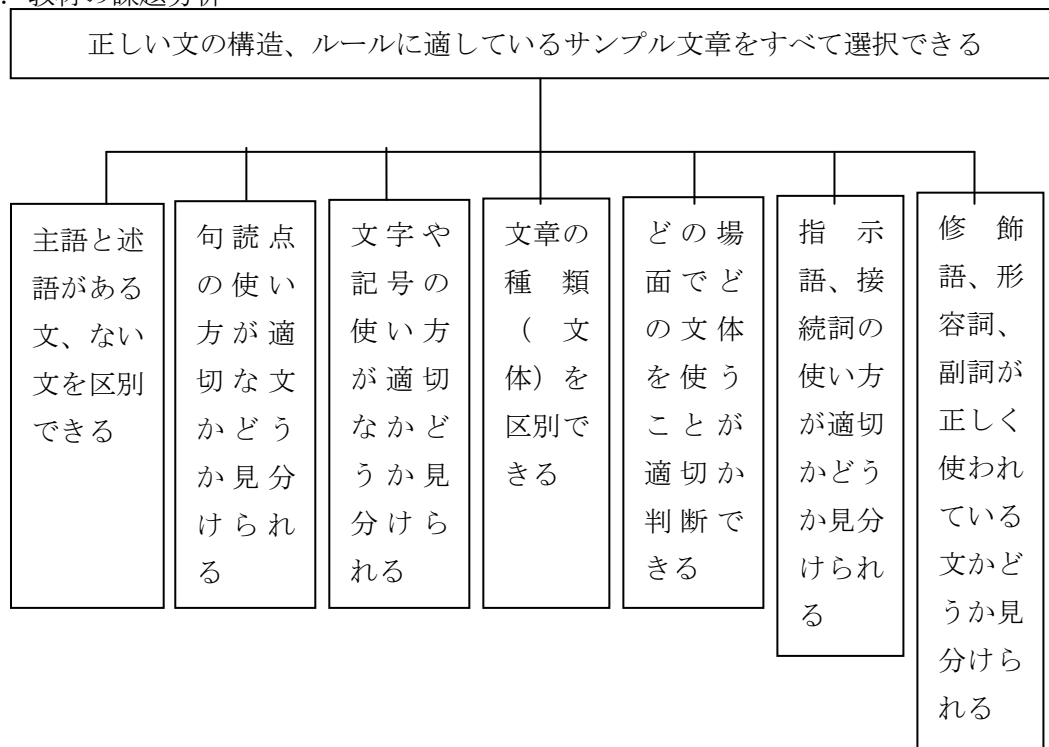
学習課題	言語情報	知的技能	態度
課題の性質	指定されたものを覚える（名前、公式、文章＜暗唱/要約＞）	ある約束事を未知の（新しい）例に応用する（概念/ルール学習）	個人的な選択の機会があったときにあることがらを選ぼうとする気持ち
課題の例	主語・述語、句読点・記号、文体、接続詞、修飾語・形容詞・副詞などの正しい使い方、ルール	正しい文の構造、ルールに適しているサンプル文章をすべて選択できるか	大学入学前の課題（文章作成/レポート提出）に、ふさわしい文章を書こうと思うこと
目標行動を表わす言葉	説明する	区別する	自発的に教材で学習したあと、大学入学前の課題（文章作成/レポート提出）に取り組み大学提出にふさわしい文章を書く
評価の観点	再認：多肢選択式、組み合わせ問題	再認：多肢選択式	行動意図の表明
評価問題の例	次の文章のうち、不適切なもの/適切なものを選べ。	大学に提出する文章にふさわしいものは、次のうちどれか、あてはまるものをすべて選べ。	＜意図＞ この教材を学習したあと、大学入学前の課題（文章作成/レポート提出）に取り組むとき、大学提出にふさわしい文章を書こうという気持ちになりましたか（大いになった/少しなった/あまり変わらない/まったく変わらない）

教材の学習課題は、言語情報、知的技能、態度の3種類に分類する。このうち、主語・述語、句読点・記号、文体、接続詞、修飾語・形容詞・副詞などの正しい使い方、ルールを学習する課題が言語情報であり、教材のトレーニング問題の中心となる。その学習成果をはかるために、正しい文の構造、ルールに適しているサンプル文章をすべて選択できるかどうかを問う問題は、知的技能にあたる学習課題である。最後に、アンケートとして、教材を学習したあと、大学入学前の課題（文章作成/レポート提出）に取り組むときに、大学提出にふさわしい文章を書こうという気持ちになったかどうか、満足度を問うことは、態度の学習課題にあたる。

教材の出口となる学習目標は、高校卒業程度であれば、身につけているとされる、日本語の正しい文の構造・ルールを理解するための学習項目（前述の表4. の7種類）の知識を習得すること、学習した項目をもとに、問題で示された文章が適切かどうかを見分けることができることである。評価条件は、7つのトレーニング問題（言語情報）と最後のチェック問題（知的技能）の全問正解を合格基準（絶対評価）とする。

教材の入口と出口をもとに、教材の課題分析をまとめると、次のように表わすことができる。7つのトレーニング問題は、言語情報の課題分析であり、学習する順序性はない。7つの学習項目それぞれにおいて、サンプル文を例示しながら個別にルールを学習していく。7つのトレーニング問題を終了した後に取り組む最後のチェック問題は、知的技能の課題分析であり、7つのトレーニング問題で学習する内容が、正しい文の構造、ルールに適しているサンプル文章をすべて選択する学習目標の前提条件となっている。

表6. 教材の課題分析



3-5. 教材の開発

教材の開発にあたり、オンライン教材かプリント教材かを検討した結果、大学入学前教育の学習者にとって負担が少ない e-learning の形態のオンラインの自習教材として開発を行う。

表 7. オンライン教材とプリント教材の比較検討

	オンライン教材		プリント教材	
	メリット	デメリット	メリット	デメリット
受講形態	遠隔地の大学入学前の学習者でも参加しやすい. 時間・場所に制約されない.	オンラインに必要な PC 機器を個人で利用できる環境が整っている必要がある. また、学習者に一定の PC スキルが必要.	特別な機器、環境が整っていないなくても利用できる. PC スキルなど教材利用に特別なスキルを必要しない.	遠隔地の大学入学前の学習者への教材の配布に制約がある. 自宅へ郵送、または集合させて配布など.
制作等のコスト	コンテンツ制作にかかる人件費中心. 印刷・配送などのコスト不要.	コンテンツ制作には、PC スキルのほか、Moodle などの LMS に関する知識が必要.	制作コストはかからない. 誰でも制作できる.	制作コスト以外に、教材を学習対象者に配布するための印刷・配送コストが生じる.
教材内容の更新	簡単に更新可能			更新するには、作り直さなければならない.
関連情報の収集・検索	PC 上で教材を利用しながら、インターネットで情報検索することができる.	図書館での文献検索の経験よりも、ネット上のみの収集活動になる傾向がある.	図書館などに教材を持参して、情報収集・文献検索活動を行うことができる.	図書館や PC をあらためて利用する必要がある.
携帯性		無線 LAN 対応の携帯 PC でなければ、常時携帯で利用は困難	いつでもどこでも手軽に携帯できる	
保存性・閲覧	データでの保存のため、かさばらず大量保存できる.	必要な箇所をすぐに閲覧するには、PC 機器が必要	必要な箇所をすぐに手にとって閲覧することが可能.	紙での保存のため、ファイルなどで保管する場所が必要.

教材提供の立場と提供方法については、現状では、入学前教育を行う大学が推奨する第三者の無料サイトとして、教材のリリースを想定している。したがって、学習である高校生に教材を提供するのは、入学前教育を行う大学ではなく、教育情報を扱う機関と考えている。本番の教材リリースにあたっては、新たにサイトを設定する必要が生じる。

教材の運用とメンテナンスについては、大学の入学前教育を受ける学習者をサポートする無料サイトを想定しているため、基本的にコストが発生しない運用とする。そのため、学習者からの問い合わせ対応やアドバイス、添削など、人的コストが生じる機能は設定しない。大学の入学前教育は、大学または学習者がコストを負担する形ですで行われているため、大学および学習者に新たな負担が生じない無料サイトとして考えている。そのため、問い合わせ対応や添削などの人的コストが生じないようにしながら、e-learning のインタラクティブな機能を生かした教材のコンテンツづくりをめざす。

具体的には、Moodle を使った無料サイトとしてプロトタイプ教材を作成中である。そのコンテンツについては、Moodle のインタラクティブな機能を生かせるレッスン機能を使って作成している。

開発当初は、e ラーニングの自己学習教材として、必要度が増えているシナリオ型教材開発に有効とされるインストラクショナルデザイン理論である、GBS（ゴールベースシナリオ）理論（鈴木・根本 2005）にもとづいて、開発を企図していた。

表 8. 当初企図した教材の開発計画の概要と開発内容

開発計画の概要		
- 教材タイトル：「大学入学前のカウンセリングルーム」から下記変更↓ 「Web 自習室～大学入学前のレポートで悩んでいる高校生のための自習室～」 - 対象学習者：大学合格者（高校生） - 学習設計の基本情報： - オンライン教材（Moodle ベース） - 学習期間（～2009 年 12 月末）		
開発内容・機能と理論的根拠		
開発内容	機能	ID 的根拠 ガニェ 9 教授事象
ログイン後のトップ画面	‘Moodle トピックフォーマット	学習者の注意を喚起する
自習室（へ入る）	HTML 形式のリソースページ	授業の目標を知らせる
A さん（B さん）の文章を チェックする 文章の内容をチェック 文章の表現をチェック 文章の形式をチェック 文章を書くポイントを チェック	レッスン機能のメインブランチ レッスン機能の説明ページと、 問題ページ（多肢選択・組み合 わせ問題中心）	前提条件を思い出させる 新しい事項を提示する 学 習 の 指 針 を 与 え る 練習の機会をつくる フィードバックを与える
見本を書き提出する	レッスン機能の作文問題	授業の目標を知らせる
参考情報の掲出	レッスン機能のブランチテーブ ル追加 HTML 形式で表示	学習の指針を与える 保持と移転を高める

当初企図した教材の開発計画書段階では、「大学入学前のカウンセリングルーム」の教材タイトルで開発に取り組み、本研究も「e-learning による大学入学前の文章トレーニング教材の開発」ではなく、「GBS 理論にもとづいた大学入学前の文章トレーニング教材の開発」と企図していた。しかしながら、「GBS 理論にもとづいた」開発理由の明確な根拠を示すことができず、また、GBS 理論の7つの構成要素（特に使命や役割について）も、開発計画でまとめることができなかったため、研究テーマを「e-learning による大学入学前の文章トレーニング教材の開発」とし、教材タイトルも「Web 自習室～大学入学前のレポートで悩んでいる高校生のための自習室～」に変更した。

「Web 自習室～大学入学前のレポートで悩んでいる高校生のための自習室～」の教材では、Web 自習室で大学入学前のレポートで悩んでいる高校生Aさん（架空の人物）が書いたサンプル文章を読み、アドバイスし、最後に見本となる文章を書いて提示する役割を学習者に与えるシナリオを設定した。教材の学習内容は、Aさん（架空の人物）が書いたサンプル文章を内容、表現、形式面からチェック（点検）し、文章を書くポイントのチェックも行うものとした。そして、小テスト機能を使い、多肢選択、組み合わせ問題を作成した。

図4. 教材（評価前）の画面抜粋＜サンプル文章と文章のチェック問題＞



第4章 教材の評価

4-1. 評価の設計

本研究における教材の評価は、3回実施した。1回目は、教材タイトルが「Web 自習室～大学入学前のレポートで悩んでいる高校生のための自習室～」の開発途中のプロトタイプ教材を、文章スキルに詳しい専門家（大学関係者3名、企業関係者1名）に評価いただいた。その評価結果をもとに、教材タイトルを「ペン太のスタディルーム～大学入学前の文章基礎力トレーニング～」に変更し、教材内容も評価結果を反映したものに改善した。

そこで、改善後の教材について、2回目の評価を行い、さらに修正を加えたものに対して、3回目の評価を行った。2回目と3回目は、教材の利用者の立場から1対1の評価を行う形成的評価として実施した。

なお、1回目の教材の評価を行うにあたっては、大学関係者3名、企業関係者1名の計4名に対し、約1週間で作成途中のオンライン教材を利用してもらい、その評価もオンラインで回答いただくために、Moodleの小テスト機能を使って行うことにした。Moodleへのログインについては、事前に評価に協力いただける方にメールでMoodleのURLとメールアドレスによるユーザー登録の方法およびコース利用のための登録キーの連絡を行った。ユーザー登録の際は、メールアドレスのドメインをあらかじめ登録し、登録以外の部外者がユーザー登録できないように設定した。評価項目については、小テスト機能の多肢選択による設問を13問作成し、最後に自由記述1問を作成した。

2回目と3回目の形成的評価は、筆者宅において、知人の学生にオンライン教材を利用してもらい、筆者が経過観察を行った。経過観察にあたっては、質問項目と観察プラン、経過時間記録用紙の3点を用意し、評価者の隣で、教材を利用している

なお、形成的評価の7つ道具は以下のとおりである。（2.～4.は、1.の教材に含む）

1. 教材そのもの

（Moodle上の「ペン太のスタディルーム～大学入学前の文章基礎力トレーニング～」）

2. 前提テスト（大学入学前の課題で文章作成に取り組む人で文章力に自信がない人）
3. 事前テスト（サンプル文章から気になる箇所＝不適切な箇所を見つけられる）
4. 事後テスト（正しい文の構造、ルールに適しているサンプル文を選択できる）
5. 質問項目（分かりにくかった点、全体の文字量、問題量、気になった点）
6. 観察プラン（観察中のメモ、特にファーストチェック＝事前テストまでの導入）
7. 経過時間記録用紙（学習時間の予想と実際の比較）

4-2. 評価結果の分析

1～3回目の評価の記録は、以下のとおりである。

1 回目の教材の評価（大学関係者 3 名、企業関係者 1 名によるオンライン評価）

実施日：2009 年 12 月 16 日～12 月 28 日 実施場所：オンライン上

2 回目の教材の評価（1 対 1 の形成的評価 筆者知人の子、高校生 1 名）

実施日：2010 年 2 月 13 日 実施場所：筆者自宅

3 回目の教材の評価（1 対 1 の形成的評価 筆者知人の子、高校生 1 名）

実施日：2010 年 2 月 14 日 実施場所：筆者自宅

表 9. 1 回目の評価結果

（選択回答より抜粋） 評価者 4 名全員が同意した項目： ・ e-learning のインタラクティブな機能をもっと生かすべきである ・ 自習教材に取り組んだかどうか、結果が大学にわかるようにしてほしい ・ 自習教材に取り組まない者へのフォローが必要である ・ 高校生が利用したいと思う魅力に欠けている 評価者 4 名中 3 名が同意した項目： ・ 文章の添削・アドバイス機能は必要である ・ 文章を書く前の基本的なトレーニングとしては、内容が不足している ・ 文章チェックの問題の量は適切である ・ 最後に文章の見本を書いて提出させることは必要である ・ 大学入学後の学生にも利用させたい ・ 文章を書く前の基礎的なトレーニングは、必要である
（自由記述より抜粋） 大学に提出する文章は思うままに綴ったものでは不適切、という基本ルールを示すには、わかりやすい内容だと思います。ただ、文章のテーマが本人の大学入学に際しての心情である場合、形式が整っていなくても、悩みや不安、志向がわかるほうがよい、という考え方もあるかと思いました。 もし形式や構成の習得を重視するなら、最後に改善後の文章が見られると、さらにわかりやすいと思います。 ----- 受講者にとってもう少し読みやすくした方が取り組みやすいように思いました。例えば、この文章の評価として適切かどうかなのか、この文章へのアドバイスと

して適切かどうか、一つの選択肢の中で方向性のやや異なる選択肢が混在しているようにお見受けいたしました。また、解説編は簡潔に要点がまとめているのですが、受講者の視覚に訴えて、読みやすいような工夫がほしいです。あの画面をきっちり読みこなす受講者は少ないのではないのでしょうか。教材の目的や方向性はよいと思いますので、ぜひ成功させてほしいです

大学に入学する前の学生に文章を書く能力を身に付けさせるのは非常に大切なことだと思います。最初使い方が分からなかったのですが使っている間に分かりました。解説は高校生が読むには文字量が多すぎて、自主的にやろうという気持ちにさせるフォローなどがあると良いのではないかと思います。

表 10. 2回目と3回目の評価（1対1の形成的評価）結果

	2回目の評価結果	3回目の評価結果
質問項目 (分かりにくかった点、全体の文字量、問題量、気になった点)	わかりにくかった点⇒最初、どう進めばいいのか、わかりにくかった 全体の文字量・問題量⇒適切である	全体の文字量・問題量⇒適切である 気になった点⇒どの問題にどのように解答したかをすぐ確認したい.解説編のウインドウがわかりにくかった.
観察プラン (観察中のメモ)	ファーストチェックまでの導入で、補足説明が必要で、独り立ちできていない	ファーストチェックまでの導入で、進み方について、迷っていた
経過時間記録 (予想)		
・ ようこそ (2分)	5分	3分
・ 学べること (3分)	3分	2分
・ 利用方法 (1分)	2分	1分
・ ファーストチェック (5分)	3分	2分
・ ページチェック (21分)	23分	16分
・ ファイナルチェック (3分)	3分	2分
・ 合計 (35分)	39分	26分

1回目の評価結果より、基礎的な文章トレーニングの必要性は専門家から理解を得られた。教材の方向性は理解を得られたが、教材自体の内容の満足度は不十分であった。そこで、教材内容（特に高校生向けに視覚的な工夫、問題を基礎的な文章スキルに絞る）について改善を行い、教材利用者の視点から2回目の評価（1対1の形成的評価）を実施した。その結果、教材全体の文字量、学習量は学習者に負担感のないものとなった。しかし、教材の導入部分で、補足説明が必要な状況であったため、ページを追加し、教材の学習目標を理解できるように努めた。3回目の評価（1対1の形成的評価）では、学習時間が短縮された。

4-3. 形成的評価後の教材の改善点

1 回目の評価（専門家による評価）結果より、教材自体の内容の満足度は不十分であったことから、教材内容の改善に取り組んだ。まず、開発計画の概要と開発内容は、次の通り改善し、教材タイトルも「ペン太のスタディールーム～大学入学前の文章基礎力トレーニング～」に変更した。そのうえで、高校生向けに視覚的な工夫、問題を基礎的な文章スキルに絞ることとした。特に教材の導入と問題の解説ページでは、文字量を少なくし、教材のガイド役となるキャラクターを設定した。さらに、7つのトレーニング問題で学習する内容をもとに、正しい文の構造、ルールに適しているサンプル文をすべて選択することを最終の学習目標とした。

表 11. 評価後、改善した教材の開発計画の概要と開発内容

開発計画の概要		
- 教材タイトル：「ペン太のスタディールーム～大学入学前の文章基礎力トレーニング～」 - 対象学習者：大学合格者（高校生） - 学習設計の基本情報： 1. オンライン教材（Moodle ベース） 2. 学習期間（～2010 年 2 月）		
※利用者は、ゲストでログイン、コース利用のための登録キーを入力することで利用可		
開発内容	機能	ID 的根拠 ガニエ 9 教授事象
ログイン後のトップ画面	‘Moodle トピックフォーマット	学習者の注意を喚起する
ペン太のスタディールームへようこそ ペン太のスタディールームで学べること ペン太のスタディールームの利用方法	HTML 形式のリソースページ	授業の目標を知らせる
ファーストチェック ベーシックチェック ※ 7 つの文章スキルに対応した問題 ファイナルチェック	レッスン機能のメインブランチ レッスン機能の説明ページと、 問題ページ（多肢選択・組み合わせ問題中心）	前提条件を思い出させる 新しい事項を提示する 学習の指針を与える 練習の機会をつくる フィードバックを与える
ペン太のアドバイス （問題の解説編）	レッスン機能のブランチテーブル追加 HTML 形式で表示	学習の指針を与える 保持と移転を高める

図 5. 教材（評価後、改善した）の画面抜粋

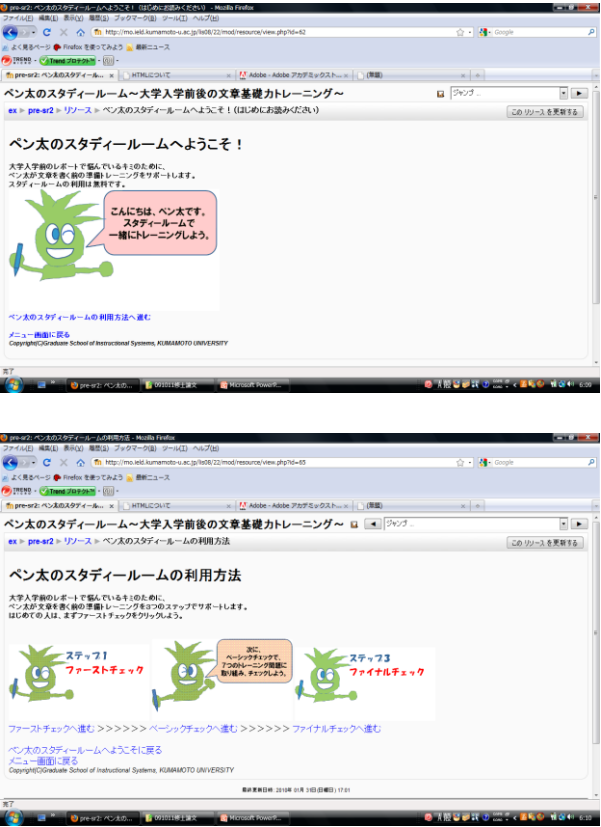


表 12. ファーストチェック（事前テストのサンプル文章）

下記の文章は、ある高校生が大学に提出しようとしている入学前課題の文章だ。 読んでみて、気になる箇所があれば、一つずつチェックしよう。 （気になる箇所は下記ボタンの中から一つを選択し、クリック） キミの文章トレーニングのタイプがわかるよ。 気になる箇所をすべてチェックできたら、ファイナルチェックをクリックしよう。（ペン太） <サンプル文章> 「大学卒業後の夢も入学してからの夢ありません。推薦で大学に合格できたことで満足です。 入学してからは、ゆっくりしたいなあ。だから、なにもしないで大学生活を過ごすつもりはありません。 親に高い学費を出してもらい大学に行かせてもらっているのだし、卒業できるように授業には出席しまーす！大学に入ってからジブンのやりたいこと探せばいいと思う。 卒業してからも、すぐには見つからないかもね。 それより就職できるかどうか不安だし・・・就職ぜんぜん厳しいからどこかに就職しないとね。」

図 6. 教材（評価後、改善した）の画面抜粋

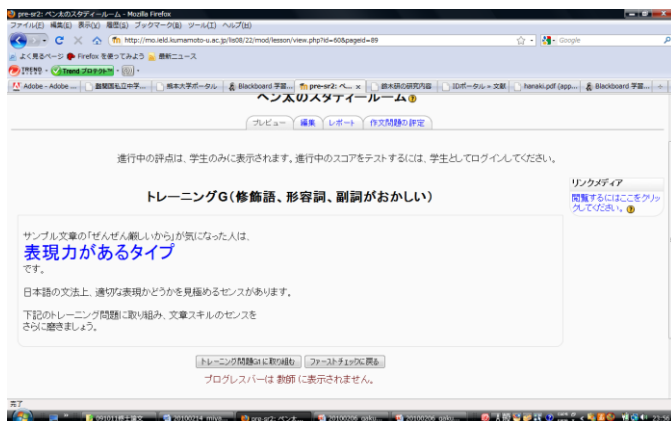


表 13. ベーシックチェック（7つのトレーニング問題）より抜粋

ベーシックチェック ートレーニング問題 G1

次の文のうち、もっとも適切なものを一つ選べ

- ☐ 両親は、心配そうに私の話を聞いている。
- ☐ 両親は、心配そうな私の話を聞いている。
- ☐ 心配そうな私は、両親のことを話している。
- ☐ 心配そうな私は、両親と話をしている。

表 14. ファイナルチェックより抜粋

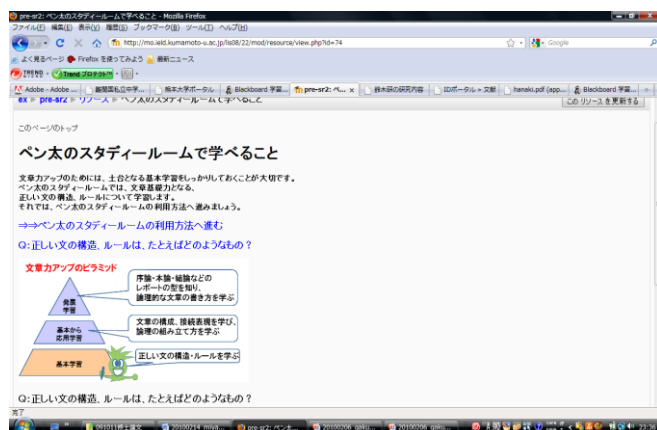
<ファイナルチェック>

大学に提出する文章にふさわしいものは、次のうちどれか、あてはまるものをすべて選べ。
(ベーシックチェックで 70 点をクリアし、ファイナルチェックに正解すると 80 点満点となり、レッスンは終了します。)

- ☐ 私がカウンセラーになりたいと思ったきっかけは、悩みを持つ友達の相談に乗ることで、人間の心に興味を持ったからである。
- ☐ 私がカウンセラーになりたいと思ったのは、悩んでいる友達の相談に乗ってあげること、人間の心に興味を持ったからです。
- ☐ 悩んでいる友達の相談に乗ってあげること、人間の心に興味を持ち、カウンセラーになりたいと思ったのは私だ。
- ☐ 私は悩んでいる友達の相談に乗ってあげること、人間の心に興味を持った。なぜなら、カウンセラーになりたいからだ。

2回目の評価（1対1の形成的評価）結果より、1回目の評価結果を反映して、教材内容を改善したことで、教材全体の文字量、学習量は学習者に負担感のないものとなった。しかし、教材の導入部分で、補足説明が必要な状況であったため、「ペン太のスタディールームで学べること」というページを追加し、教材の学習目標を理解できるように努めた。

図7. 教材（評価後、追加したページ）の画面抜粋



第5章 結論

5-1. まとめと考察

結論として、大学入学前の文章作成指導における文章を書く前の基礎的な文章トレーニングの必要性および本研究で意図した教材開発の方向性は、専門家による教材評価によって、基本的理解が得られた。そのことは、本教材が入学前教育における文章作成指導の改善につながる可能性を示すものである。

本研究の目的において示した、現行の大学入学前の文章作成指導において、入学後の文章表現指導につながるような文章の基礎的なスキルを習得する学習の機会が不足しているという課題は、文章を書く前の文章基礎力を身につけるトレーニングを、e-learning による自習教材として開発することにより、改善することが可能であると考え、教材開発に取り組んだ。その結果、教材開発の方向性が専門家の基本的理解が得られ、プロトタイプとしての e ラーニング教材が形になったことが、本研究の成果である。

5-2. 今後の課題

本研究の今後の課題は、言語情報、知的技能だけでなく、学習者である高校生が本研究で開発中の教材を学習したあと、大学入学前の課題（文章作成/レポート提出）に取り組むとき、大学提出にふさわしい文章を書こうという気持ちになるような態度まで、学習成果が表れるような、魅力あるコンテンツに改善していくことである。

そのためには、e ラーニング特性による課題への対応と、メリットの活用に取り組むとともに、理論的根拠として、あらためて GBS 理論を使い、シナリオ型の e ラーニング教材として開発内容をブラッシュアップすることを検討していく。

謝辞

本研究において、丁寧にご指導いただきました指導教官の渡邊あや准教授、副指導教官である喜多敏博教授、鈴木克明教授に深く感謝いたします。また、本研究で開発中の教材の評価にご協力いただきました方々に感謝の意を表します。

参考文献リスト

- (1) 井上千以子：“高等教育における文章表現教育プログラムの開発—メタ認知を促す授業実践—”，大学教育学会誌，23(2)，46-53，(2001)
- (2) 向後千春，伊豆原久美子ほか：“e ラーニングによる大学入学前教育「文章表現」の設計・実践とその評価”，日本教育工学会研究報告集，(2006)
- (3) 池内健治，風戸修子ほか：“入学前学習「日本語表現」の開発とその成果”，産能短期大学紀要第37号，(2004)
- (4) 細川英雄，森元桂子：“オンデマンドによる大学入学前導入教育「文章表現」の試み-2003-2005 年度「総合活動型日本語教育」の成果と問題点-”，早稲田大学日本語教育研究 7号，27-40 (2005)
- (5) 中村浩ほか：“短期大学部生活創造学科学生を対象とした入学前教育に関する意識調査”，北星学園大学短期大学部北星論集 5，43-52 (2007)
- (6) 豊田雄彦・奥村憲：“レポート作成支援プログラムの開発とレビュー”，自由が丘産能短期大学紀要39，pp95-110，(2006)
- (7) 米澤誠：“e ラーニングでのレポート作成授業の実践と成果評価”，東北大学高等教育開発推進センター紀要 (2)，pp237 -243，(2007)
- (8) 大島弥生・池田玲子ほか：“ピアで学ぶ大学生の日本語表現-プロセス重視のレポート作成-”，ひつじ書房，(2005)
- (9) 濱名篤：“日本の初年次教育の課題-学士教育課程・入学前教育との関係-”，初年次教育学会第1巻第1号，pp 57-64 (2008)
- (10) 鈴木克明(編著)：“詳説インストラクショナルデザイン：e ラーニングファンダメンタル (パッケージ版テキスト)”，特定非営利活動法人日本イーラーニングコンソソーシアム，東京(2004)
- (11) ガニエ，ウェイジャー，ゴラス，ケラー (著)，鈴木克，岩崎信 (監訳)：“インストラクショナルデザインの原理”，北大路書房，京都(2007)
- (12) 山本以和子：“寄稿 リメディアル教育の現状～大学アンケートから～”，Between7.8月号(進研アド)，(2001)
- (13) Benesse High School Online(2007)大学まると調査第14回新入生の基礎学力不足への対応策，http://ex.fine.ne.jp/op/marugoto-chosa/frame/cf_14_m_frame.htm，(参照 2009-05-09)
- (14) 法政大学 FD 推進センター(2006)「主に一年生を対象とした初年次教育・リメディアル教育に関する調査」報告書，http://www.hosei.ac.jp/fd/newsletter/img/report_2006_cyousa.pdf，(参照 2009-05-09)
- (15) 河野哲也：“レポート・論文の書き方入門第3版”，慶応義塾大学出版会，(1997)
- (16) 井出翁，藤田節子：“レポート作成法—インターネット時代の情報の探し方—”，日外アソシエーツ，(2003)
- (17) 木下是雄：“理科系の作文技術”，中公新書，(1981)
- (18) 戸田山和久：“論文の教室レポートから卒論まで-”，NHKBOOKS，(2002)
- (19) 佐久間潔：“入学前教育学習会支援システムの試作”，一宮女子短期大学紀要 45，47-54 (2006)
- (20) 杉谷祐美子：“大学管理職からみた初年次教育への期待と評価”，大学教育学会誌 26-1号，p35 (2004)
- (21) 小野博ほか：“日本の大学生の基礎学力構造とリメディアル教育”，メディア教育開発センター (2005)
- (22) “「AO 入試・入学前教育に関するアンケート」調査結果報告書” 河合塾 (2008)
http://www.keinet.ne.jp/doc/g1/08/09/ao_eng.pdf (参照 2009-07-25)
- (23) 泉忠司：“論文&レポートの書き方”，青春出版社，(1981)
- (24) 友松悦子：“小論文への12のステップ”，スリーエーネットワーク，(2008)
- (25) 鈴木克明：“教材設計マニュアル—独学を支援するために—”，北大路書房，(2002)
- (26) 根本淳子，鈴木克明：“ゴールベースシナリオ (GBS) 理論の適応度チェックリストの開発”，日本教育工学会論文誌，29 (3)，309-318，(2005)

<1 回目の教材評価の項目>

Question 1

文章を書く前の基礎的なトレーニングは、必要だと思いますか。

少なくとも1つの答えを選択してください。

- ☐ 1. そう思う
- ☐ 2. どちらかといえばそう思う
- ☐ 3. どちらでもない
- ☐ 4. どちらかといえばそう思わない
- ☐ 5. そう思わない

Question 2

入学前教育の対象となる学習者(高校生)に、

文章を書く前の基礎的なトレーニングのための自習教材として、

本教材「Web 自習室」の利用をすすめたいと思いますか。(1つ選択)

少なくとも1つの答えを選択してください。

- ☐ 1. 大いに利用をすすめたい
- ☐ 2. 利用をすすめてみたい
- ☐ 3. どちらでもない
- ☐ 4. あまり利用をすすめたくない
- ☐ 5. まったく利用させたくない

Question 3

大学の入学前教育で課せられるレポート提出の学習成果は、学習者に明確に示すべきだと思いますか

少なくとも1つの答えを選択してください。

- ☐ 1. そう思う
- ☐ 2. どちらかといえばそう思う
- ☐ 3. どちらでもない
- ☐ 4. どちらかといえばそう思わない
- ☐ 5. そう思わない

教材評価項目

Question 4

大学の入学前教育で課せられるレポート提出では、
どの程度までの学習成果を求めることが適切だと思いますか。

もっともあてはまるものを一つ選択ください。

少なくとも1つの答えを選択してください。

- ☐ 1. 与えられたテーマについて、文章のルール・形式に沿って、自分の考えを簡潔に表現できる
- ☐ 2. 与えられたテーマについて、文章のルール・形式に沿った文章が書けていれば表現内容は問わない
- ☐ 3. 文章のルール・形式に沿っていても与えられたテーマ以外のことを書いたものは読まない
- ☐ 4. テーマに沿って読み手に伝わるものであれば、文章のルール・形式は問わない
- ☐ 5. テーマや文章のルール・形式に沿っていなくても、何か読み手に伝わる文章を書けていればよい

Question 5

本教材による自学自習で得られる学習成果について、あてはまると思うものをすべて選択してください。

少なくとも1つの答えを選択してください。

- ☐ 1. 文章を書くための基本的なルール、形式を理解する
- ☐ 2. 他の人が書いた文章を点検するポイントを理解する
- ☐ 3. 読み手にわかりやすく伝える文章を書かなければならないことを理解する
- ☐ 4. 文章を書く前に、テーマの理解が必要であることを理解する
- ☐ 5. 文章を書く前に、書きたいことの整理が必要であることを理解する
- ☐ 6. あてはまる成果は特にない

Question 6

本教材の自習室において、Aさん、Bさんの相談に応えるという状況設定は適切である

少なくとも1つの答えを選択してください。

- ☐ 1. そう思う
- ☐ 2. どちらかといえばそう思う
- ☐ 3. どちらでもない
- ☐ 4. どちらかといえばそう思わない
- ☐ 5. そう思わない

教材評価項目

Question 7

Aさん、Bさんの書いた文章はサンプルとして適切である
少なくとも1つの答えを選択してください。

- ☐ 1. そう思う
- ☐ 2. どちらかといえばそう思う
- ☐ 3. どちらでもない
- ☐ 4. どちらかといえばそう思わない
- ☐ 5. そう思わない

Question 8

文章チェックの問題の量は適切である
少なくとも1つの答えを選択してください。

- ☐ 1. そう思う
- ☐ 2. どちらかといえばそう思う
- ☐ 3. どちらでもない
- ☐ 4. どちらかといえばそう思わない
- ☐ 5. そう思わない

Question 9

文章チェックの問題のレベルは適切である
少なくとも1つの答えを選択してください。

- ☐ 1. そう思う
- ☐ 2. どちらかといえばそう思う
- ☐ 3. どちらでもない
- ☐ 4. どちらかといえばそう思わない
- ☐ 5. そう思わない

教材評価項目

Question 10

問題の解説編の内容は適切である

少なくとも1つの答えを選択してください。

- ☐ 1. そう思う
- ☐ 2. どちらかといえばそう思う
- ☐ 3. どちらでもない
- ☐ 4. どちらかといえばそう思わない
- ☐ 5. そう思わない

Question 11

参考情報は適切である

少なくとも1つの答えを選択してください。

- ☐ 1. そう思う
- ☐ 2. どちらかといえばそう思う
- ☐ 3. どちらでもない
- ☐ 4. どちらかといえばそう思わない
- ☐ 5. そう思わない

Question 12

最後に文章の見本を書いて提出させることは必要である

少なくとも1つの答えを選択してください。

- ☐ 1. そう思う
- ☐ 2. どちらかといえばそう思う
- ☐ 3. どちらでもない
- ☐ 4. どちらかといえばそう思わない
- ☐ 5. そう思わない

教材評価項目

Question 13

本教材をご覧になって、次の12項目について、あてはまるものには○、あてはまらないものには×で選んでお答え下さい。（すべての項目について回答ください）

e-learning のインタラクティブな機能をもっと生かすべきである

自習教材に取り組んだかどうか、結果が大学にわかるようにしてほしい

文章の添削・アドバイス機能は必要である

自習教材に取り組まない者へのフォローが必要である

文章を書く前の基本的なトレーニングだけの自習教材は必要ない

文章を書く前の基本的なトレーニングは必要だが、大学入学後に学習させればよい

文章を書く前の基本的なトレーニングとしては、内容が不足している

高校生が利用したいと思う魅力に欠けている

紙による自習教材を配布して、通信添削時に確認すれば十分である（e-learning は不要）

大学入学後の学生にも利用させたい

現在の入学前教育の受講者にすぐ利用させたい

現状で特に改善すべき点はない

Question 14

本教材の改善すべき点や、ご意見などがございましたら、具体的にご記入下さい。

